

# 注

三年

画数 8  
筆順 シ 汗 注  
オン チユウ  
クン そそ川ぐ

成り立ち

燭台に火がともっている形をあらわし、「まん中にあつまる」といういみをあらわした「主（3年320）」と、「川」のいみの「シ」とを組み合わせて作った字です。

「川が、まん中の海にあつまる」といういみから、「注目」が「川が海に『そそぐ』ことをあらわした字です。また、「水を中心にあつめる」といういみから、「注目」など、「目や心をひとところにあつめる」というばあいにもつかわれるようになりました。

使い方

▽どんな大きな川も、そのはじめは小さなながれからはじまります。いくつかのながれがあつまって大きな川となり、ついには、大海に注いで行くのです。

▽遠くできらりと光るものがありました。じっと目を注ぐと、それは、高い教会のとうだとわかりました。

熟語例

▽注目（目を注ぐこと。集中して、なにかを見ること。「先生がせきばらいをしたので、みんな、なにごとか注目しました」などというふうには、つかいません。）

▽注意（意を注ぐ、といういみです。気をつけること。また用心する、といういみにもつかいます。「道をわたるときには、左右をよく見て、車に注意して、わたりましょう」などというふうには、つかいません。）

▽注水（水を注ぐこと。）

▽注射（はりをさして、そこから、くすりなどをからだの中へ注ぐこと。「ぼくのおとうとは、かぜをひいて、おいしやさんに注射をされて、なきました」など）

▽注文（しなものをおくらせたり作らせたりすること。また、きぼうすること。「カレーを注文した」など）

使い方

▽ギリシヤふうのたてもの柱は、まん中が少しふくらんでいます。これはエンタシスといって、ギリシヤけんちくどくどくのものです。

▽おとうさんは一家の大黒柱です。おとうさんが毎日たらいて、かせいでくれるおかげで、みんな食べたり学校へ通ったりできます。もちろん、おかあさんもだ

いじな一家の柱です。ちかごろでは、おかあさんも外に出て、はたらきます。おかあさんは、家の中のしごともします。おとうさん、おかあさんには、かんしやしても、しすぎることはありません。

熟語例

▽大黒柱（家をささえている柱の中で、いちばん太い中心となる柱。また、そこから、家や国などをささえて中心となっている人のことをいいます。）

▽電柱（電信柱のこと。電線をささえるための柱）

▽支柱（なにかをささえるための柱。つかいぼうのこと。）

▽柱石（柱と土台になる石、ということから、たのみとする、だいたいな人のことをいいます。）

# 柱

三年

画数 9  
筆順 木 杆 柱  
オン チユウ  
クン はしら

成り立ち

燭台に火がともっている形をあらわし、「家の中心」といういみをあらわした「主」と「木」とを組み合わせて作った字です。

「家の中心となる木」「家をささえる木」といういみの字で、「はしら」をあらわしたものです。

柱は「やねをささえている」ものですから、「ものをささえたいせつなもの」のことをあらわす字としてつかわれます。

〔柱の音チユウは、主の音シユウの訛ったものである。幼児が「お父たん」というように、サ行音はタ行音に発音されやすいからである。〕